

## ○タイトル

ダノンジャパン(株)と連携：「Nudge」を取り入れた食育事業中間報告の実施

## ○本文

2017年3月6日(月)に、東洋大学板倉キャンパス 2101 教室において、ダノンジャパン(株)と連携し行っている食育事業の中間報告会を実施いたしました。

本報告は太田昌子准教授(食環境科学部・ライフイノベーション研究所所属)が、ライフイノベーション研究所のダノンジャパン(株)からの受託研究として平成28年8月より実施している食育事業”**Ryden Project**”の中間発表をダノンジャパン(株)と共催で行ったものになります。

本研究は、石井智美さん(食環境科学科フードサイエンス専攻4年)と佐藤志帆さん(食環境科学科スポーツ・食品機能専攻4年)の2名の協力を得て実施しました。群馬県板倉町の小学校高学年(10歳～12歳)の児童を対象に「**Nudge** (緩やかな介入)」という行動科学の手法を取り入れた、食育教室や調査を実施することで、乳製品の摂取量増加の増加とその継続効果を見込むことを目的とした研究です。具体的には、強制的に乳製品を摂取させるのではなく、「**Nudge** (緩やかな介入)」：①学校給食で乳製品を配布すること、②食育教室を通じて乳製品の有用性を伝えること、③複数回食事調査を実施しその結果をフィードバックすること、の実践により、乳製品の摂取に対する行動変容を促し、小学校卒業後も見据えた乳製品摂取量の持続的増加の可能性を探りました。

今回の中間発表では、乳製品提供群と非提供群に対して実施した食事調査を比較すると、日々の乳製品摂取量の増加が確認されたことにとどまらず、塩分摂取量の低下や魚摂取量の増加といった波及効果が結果として得られたことが報告されました。なお、本研究は平成29年10月まで継続をし、今後の**Nudge** 効果の持続性の検討や日本における乳製品摂取量増加への適応性等を追求していきます。

ダノンジャパン(株)ではこの**Nudge** 効果に着目した研究を日本で実施するのは初の試みであり、ライフイノベーション研究所ではこの日本初の研究結果を広く発信し、将来的にはよりグローバルな範囲での研究の展開、更なる連携の可能性を目指していきます。